



みどりの相談員 そうたんいん

あきもと 秋元 みつじ 満司

シクラメンのちょっとした話

冬の鉢花として多くの人達に親しまれている、そのシクラメンの栽培管理については色々と書かれている事はあります。

今回は、そこから離れて書いてみたいと思います。

※原産地と名前の由来は…（日本名も含めて）

地中海沿岸で、北アフリカ・中近東・ヨーロッパの国々です。

サクラソウ科、シクラメン属、球根植物（塊茎）シクラメンの学名は *Cyclamen persicum* シクラメン・ペルシカムで、シクラメンの語源はギリシャ語で「円」「旋回」を意味します。それは、球根が丸い球形と開花後、結実すると花茎がらせん状に丸く巻くところからきています。

自生している地域では、野生の豚が球根を好んで食べることからサウブレッド（Sow bread）とヨーロッパでは呼ばれていました。

日本へは、明治初期に入ってきました。まだ、パンがあまりなじみが薄かったことから「豚のまんじゅう」という和名で紹介されたようです。もう一つの和名「かがり火花」これは、後に、植物学者の牧野富太郎博士がシクラメンが飾られている会場で、歌人の九条武子がシクラメンの花弁がそりかえった赤い花を見て、まるで「かがり火」のようですねと、それを聞いた博士が「かがり火花」という和名を命名したと言われていました。普及している名はシクラメンですね、まあ、当たり前ですね。

※日本での栽培の始まりは

明治初期には入ってきたのですが、栽培が難しく一般の人達にはなじみの薄い花でした。

大正時代の終わり頃に、岐阜県恵那市の養蚕農家の伊藤孝重という人が、花が好きで花の生産も行っていたところ、当時、ダム建築指導のために来日していた技師の夫人から勧められて、シクラメンの本格的栽培を始め、何年も苦勞、研究し、栽培体系を確立したそうです。

※花言葉

日本中で親しまれている花ですが、シ「死」ク「苦」から、見舞い等では、語呂が良くないと言われていたようですが、鉢物は一般的に使わないですね。

一般的な花言葉「遠慮」「内気」「はにかみ」

色別では、赤「嫉妬心」・白「清純」・ピンク「憧れ」・パステル「理解」



などとなっていますが、花のイメージからは、私としては、あまり合っているとは思わないのですが…

※香り

今、市販されている園芸品種にはほとんど香りはありませんが、原種のシクラメンペルシカムには香りがあります。

40年程前に「シクラメンのかほり」の歌がヒットした頃に芳香シクラメンが登場し、いくらか出回っています。

今、埼玉県農林総合研究センターが、バイオ技術で芳香のもつ野生種×園芸品種で芳香シクラメンを作り出し品種登録されています。3品種あるそうです。香りはバラとヒヤシンスを合わせたような良い香りという事ですが…

※切り花で

シクラメンの鉢花を楽しむのも良いのですが、花が多く咲いている株から新しい花を数輪ぬいて一輪挿しにでも飾るのも良いですよ。10日位は持ちます。

今回は、栽培から離れてのシクラメンについてでした。



みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問にお答えします。電話でもお受けしています。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 ハナミツバチ



森のこども館のお知らせ

毎月第一土曜日に森の工芸館で「森のこども館」が開かれています。野菊野こども館のスタッフが、自然体験や工作など、自然の中での遊び方を提供します。動きやすい服装で、ぜひ遊びにきてくださいね。

お問合せ：松戸市野菊のこども館

電話：047-331-1144

パークセンター12月・1月の催し物

講座名	日時	費用	定員	講師名	受付開始日
バードウォッチング 「～公園で見られる冬鳥～」	12月7日(日曜) 10時00分～11時30分	無料	25	自然解説員 直井 宏 氏	11月15日から
園芸教室 「楽しく作る～厄除けにもなる稲穂の正月飾り～」	12月10日(水曜) 13時30分～15時00分	こちらの講座は定員に達しました。			
みどりの講習会 「ミニ門松作り」	12月13日(土曜) 13時30分～15時30分	こちらの講座は定員に達しました。			
園芸教室 「暮れから正月を祝う～踊り葉ポタンの寄せ植え～」	12月14日(日曜) 13時30分～15時00分	こちらの講座は定員に達しました。			
東葛園芸クラブ公開学習会 「バラ入門③～まとめ～」	12月16日(火曜) 10時00分～12時00分	こちらの講座は定員に達しました。			
みどりの講習会 「クリスマスを素敵に演出するアレンジメント」	12月20日(土曜) 13時30分～15時30分	こちらの講座は定員に達しました。			
クラフト教室 「野鳥の手作りブローチを作ろう」	1月17日(土曜) 13時30分～15時30分	500円	20	森林インストラクター 栗田 吉治 氏	12月14日から
園芸教室 「冬の鉢花の管理」	1月24日(土曜) 13時30分～15時00分	無料	30	みどりの相談員 秋元 満司 氏	12月14日から
バードウォッチング 「～公園で見られる冬鳥～」	1月25日(日曜) 10時00分～11時30分	無料	25	自然解説員 今村 裕之 氏	12月14日から
東葛園芸クラブ公開学習会 「土づくりと農作業の基本 ～栽培計画の立て方～」	1月27日(火曜) 10時00分～12時00分	無料	20	元千葉県農業改良普及センター所長 酒井 利夫 氏	12月14日から
みどりの講習会 「バラの冬の管理」	1月31日(土曜) 13時30分～15時30分	無料	30	坂野ガーデン代表 坂野 郁子 氏	12月14日から



虫こぶについて

～ちいさなすみかに、かくされたドラマ～

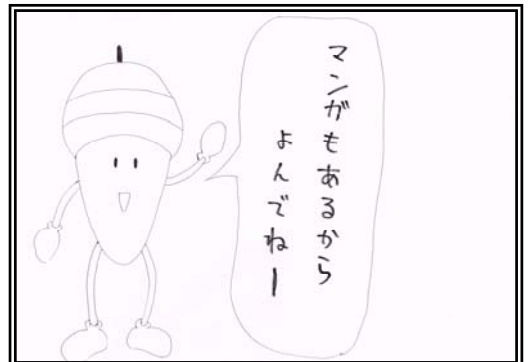
生物が植物を刺激^{しげき}することで、植物本来の構造^{こうぞう}が変わり、色が変わったりこぶ状になったりすることがあります。このなかで虫によって変化したものを「虫こぶ」と言います。虫こぶは、それを作った虫のエサになり、虫のかくれる場所にもなっています。つまり「お菓子の家」のようであらやましい限りです。そんなぜいたくなすみかですが、中の虫にとっては良いことではありません。虫こぶがあるということは、その中に虫がいることを知らせているようなものです。そのため外敵^{がいてき}は虫こぶをさがせば、中にいる虫を食べることができます。良いことだけではないようですね。

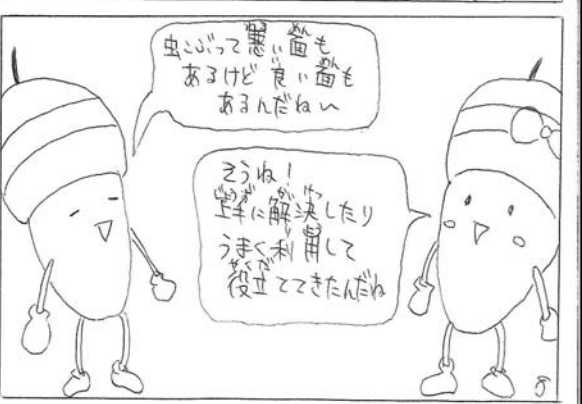
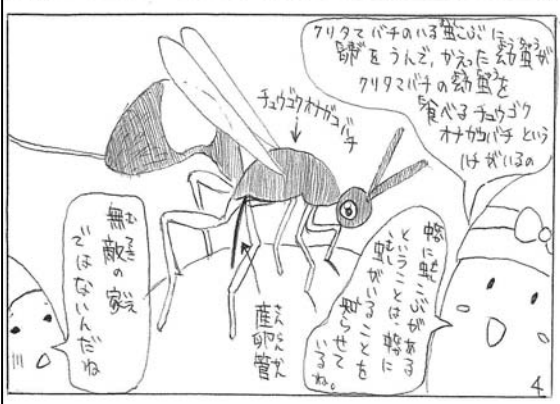
虫こぶは、植物にとってもありがたいものですが、私たちも困ることがあります。クリの新芽^{しんめ}に虫こぶをつくるクリタマバチというハチがいます。虫こぶになった芽は伸びないのでクリの実ができません。クリタマバチは快適^{かいてき}に過ごしていますが、私たちにとっては、クリの実ができないのは困ります。そこでこの虫をやっつける虫を中国から見つけてきました。見つけてきた外敵のチュウゴクオナガコバチは、虫こぶに卵を産み^{かえ}、孵った幼虫はクリタマバチの幼虫を食べるので、虫こぶは少なくなり、またクリの実ができるようになりました。



また、虫こぶが私たちの生活に役立つこともあります。虫こぶの中にはタンニンという成分が含まれています。このタンニンを動物の皮に使うと、バッグやベルトなどの革製品に加工しやすくなります。また血を止めたり、下痢止めなどの薬として使われていたりしていました。また、タンニンを利用してインクを作ることもできます。タンニンと鉄の成分をまぜることによって黒色のインクが出来上がります。昔の人はこれを利用して文字を書いていたといわれています。

このように虫こぶは植物や私たちにとって良くない面もありますが、上手に解決したり、うまく利用したりして役立ってきたのです。小さな虫こぶにも様々なドラマがかくされているのですね。





中級野鳥識別ポイント（フィールドマーク）

野鳥観察会に参加した時、^{しまへつ}識別ポイントは、ここを見れば鳥の名前がわかりますよと。

○ジョウビタキ（ヒタキ科 14cm）

冬鳥のジョウビタキは雄も雌も、翼に白い斑があります。雄と雌では色がちがいますが、白い斑は雄の方が少し大きいです。

このように、ここを見れば鳥の名前がわかるというのを、フィールドマークといいます。



ジョウビタキ

◎オオセッカ（センニュウ科 13cm） マキノセンニュウ（センニュウ科 12cm） セッカ（セッカ科 12.5cm）の識別ポイント

この3種は良く似ていて、頭部には、黒い^{じゅうはん}縦班が有り、背中にも、黒い縦班があります。白い^{びはん}眉班も、3種共にあります。1羽ずつ見ると識別しにくいです。

○オオセッカ

21世紀の森と広場では、一度だけ^{せいたいえん}生態園で^{さえず}囀りを聞いたことがあります。

以前は青森県などで^{はんしよく}繁殖していましたが、今では、^{とねがわ}利根川下流の千葉県側、茨城県側の^{あしはら}葦原で繁殖しています。春早い時期では、枯れた葦原の中で、ジुकジुकジुकと囀っていて、姿を現わすことはないのですが、葦の芽が伸びたころには、枯れた葦の穂先の方へ、あがって来て、そこから勢いよく飛び出し、ジुकジुकジुकジुकと囀りながら飛び上がり、囀りながら葦原へと消えて行きます。これを何度も何度も繰り返します。

○マキノセンニュウ（夏鳥）

この鳥は、21世紀の森と広場では記録がありません。夏鳥で北海道で繁殖します。囀りはチリリリリリリ…と虫のような声で囀りますがオオセッカのように飛び出すことはありません。

○セッカ

21世紀の森と広場の自然観察舎からも見る事が出来ます。特に冬の間、葦原に住んでいて風のない暖かな日などには、枯れた葦原の穂先の方へ登って来て、姿を見せてくれます。以前には、千駄堀でも繁殖していましたが、最近では確認されていません。

葦の芽が出始めるころ、囀りが聞こえます。葦原の上をヒッヒッヒッヒッと囀りながら飛び上がります。降りてくる時は、チャチャッ チャチャッ チャチャッと鳴きながら、葦原の中へ隠れます。

前に出て来たオオセッカ、マキノセンニュウは1羽で見ると識別しにくいといましたが、セッカだけは、ここを見れば絶対見間違いないというフィールドマークがあります。それは尾羽の下面です。黒い帯があります。小さな鳥で黒い帯があるのは、セッカだけです。



セッカ

◎カシラダカ（ホオジロ科 15cm）ミヤマホオジロ（ホオジロ科 15.5cm）の識別ポイント

○カシラダカ（冬鳥）

21世紀の森と広場では、野草園、生態園、みどりの里の草原で、草の実などを食べます。なにかにおどろくと、近くの木の枝などへ飛び上がります。自然観察舎では、千駄堀池と、上の池の間の土手上的草原で、餌をとるカシラダカが見られます。15cmのカシラダカは、雌雄とも頭の羽根が立ちます。頭（かしら）の羽根が立つところからカシラダカの名前があります。ホオジロと間違いますが、ホオジロには胸から腹は茶色ですが、カシラダカは白です。胸から脇腹に茶色の縦斑があります。



ミヤマホオジロ



カシラダカ

○ミヤマホオジロ（冬鳥）

カシラダカと同じように、頭の羽根は雌雄ともに立ちます。雄は眉斑と喉が黄色です。過眼線と胸は黒です。雌の眉斑は黄色味を帯びた褐色です。胸は黄褐色で腹は白いです。

21世紀の森と広場では、数年に一度という珍しい鳥です。野鳥観察会などで、ミヤマホオジロの雌と、当年生まれのカシラダカが良く似ているので議論になることがあります。でもこのフィールドマークを見れば間違いないという場所があります。それは腰です。カシラダカの腰は、赤褐色で鱗模様をしています。ミヤマホオジロの腰は灰褐色で鱗模様などはありません。このフィールドマークが見られれば、議論は終わりです。

～自然観察舎 湿地の観察会のご案内～

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00～10:30
	11:00～11:30
	13:30～14:00
	14:30～15:00
定員	25名（当日先着順受付）

★ご来園の皆様へお願い★

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。
自転車（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。
また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたかくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、^{かわい}可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわいそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

- ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- なるべく公共の交通機関をご利用ください。

発行日：2014年12月1日
発行：21世紀の森と広場パークセンター
開館：9:00～16:30
(11月1日～2月28日 9:00～16:00)
月曜休館（祝日開館／翌日休館）
〒270-2252 松戸市千駄堀269
TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>



21世紀の森と広場
CITY OF MATSUDO
21世紀の森と広場シンボルキャラクター
ドンちゃん・グリちゃん